

平成29年度事業計画及び 収支予算の概要

血液事業特別会計



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

1. 平成28年度 主な取り組みと課題

項目	目標	これまでの取り組み	今後の方向性・課題
事業運営体制の充実	広域事業運営の推進、改善の風土づくり、早期経営改善	各血液センターの改善委員会の設置と事業改善マネジメント体制の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック単位の効果的事業の推進 ・採血の役割分担 ・採血効率の向上
献血者の確保対策	若年層の献血率向上	年代別目標値には未達	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック及び地域C毎の具体的確保対策(複数回献血等)の推進
血液製剤の安全性の向上	新興感染症等への対策、輸血副作用の軽減	個別NAT導入以降の輸血後HCV、HIV感染は0件、HBV感染は1件	<ul style="list-style-type: none"> ・洗浄血小板製剤の導入 ・ウイルス低減化技術等の検討

2. 平成29年度事業計画の方針

事業環境

- ・少子化による若年層人口の減少
- ・輸血の安全性向上へのさらなる期待

基本戦略

- ・将来の献血者層となる若年層の啓発を推進する。
- ・血液製剤の安全性向上に取り組む。
- ・採血から供給に至る事業効率を改善する。

主な施策

- (1) 事業改善の推進
- (2) 健全な財政の確立
- (3) 献血者の安定的確保
- (4) 血液製剤の安全性向上



けんけつちゃん

平成29年度 採血・製造・供給計画(概要)

献血 受入

- ・ 400mL献血、成分献血を中心に**479万人**の協力を受入



検査・ 製造

- ・ 需要に見合う**1,762万本**の血液製剤を製造
- ・ 原料血漿を製薬会社に**96.5万L**送付



本数は200mL献血由来を1本とした換算数

血液製剤 供給

- ・ 全国1万ヶ所の医療機関に、
24時間365日迅速に血液製剤を供給



3. 各施策について

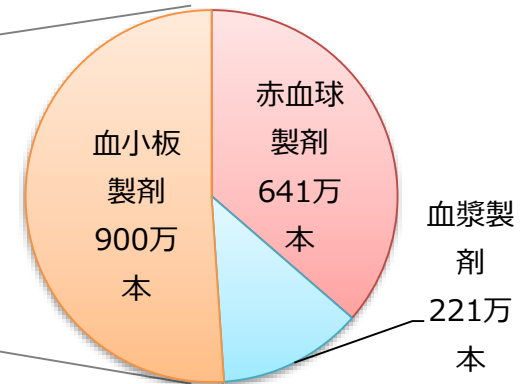
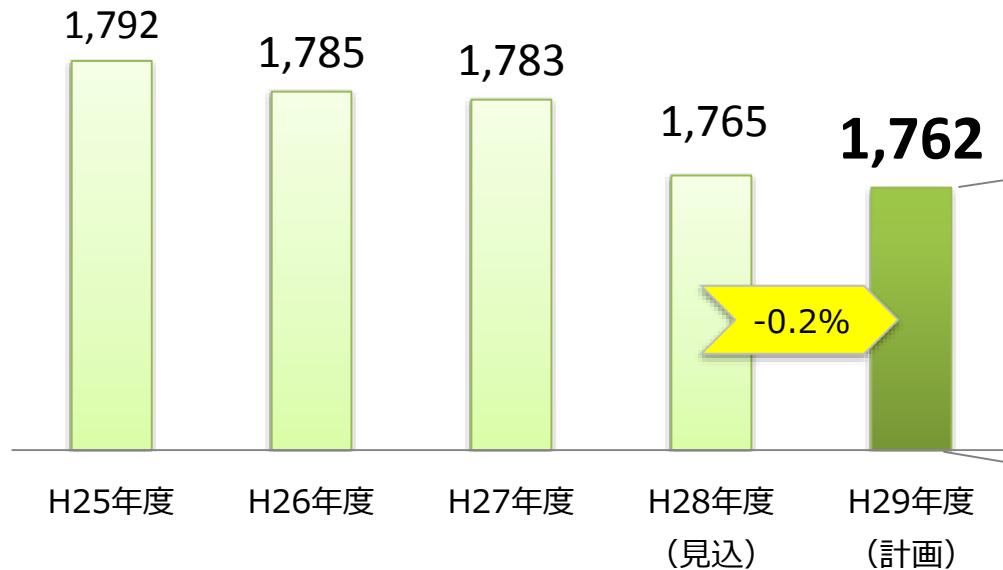
(1) 事業改善の推進

状況

輸血用血液の需要の減少傾向

輸血用血液の供給量推移

(万本)

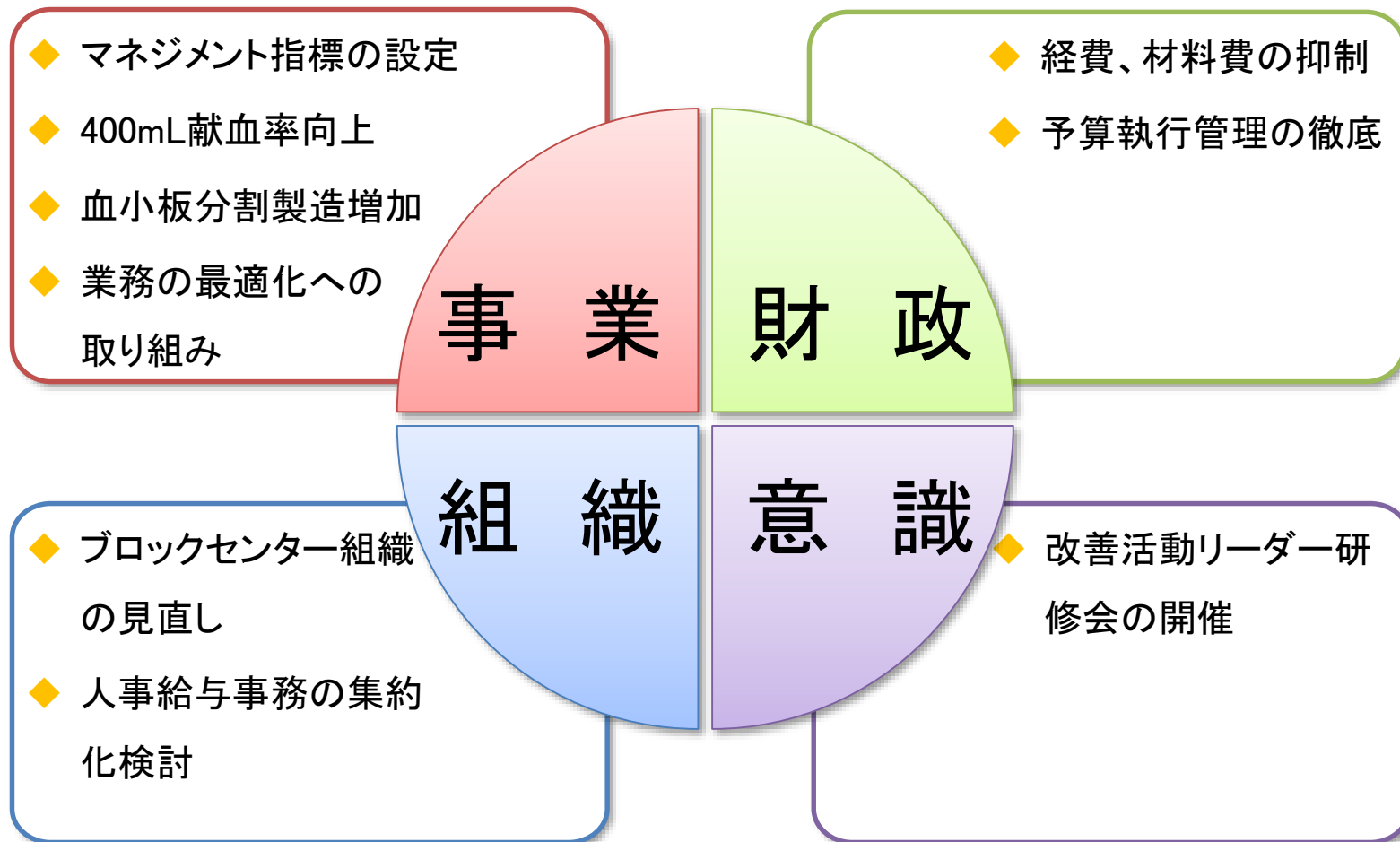


輸血を必要とする患者の減少等が背景にある

今後

さらなる改善活動の実践及び定着化

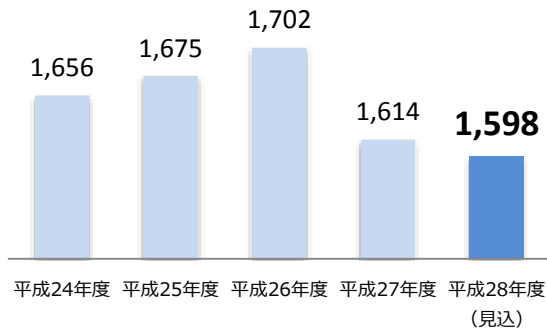
改善の4領域と取り組み(一部)



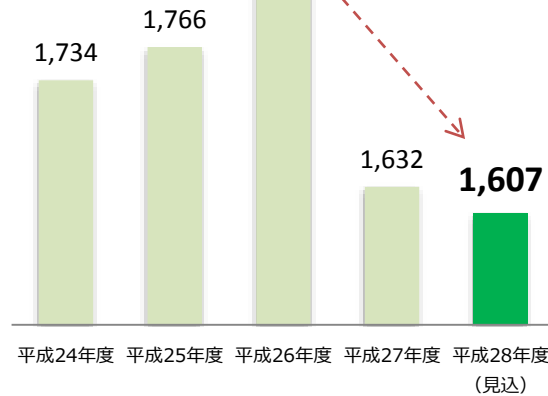
(2) 健全な財政の確立

状況 支出構造の見直しによる赤字額減少

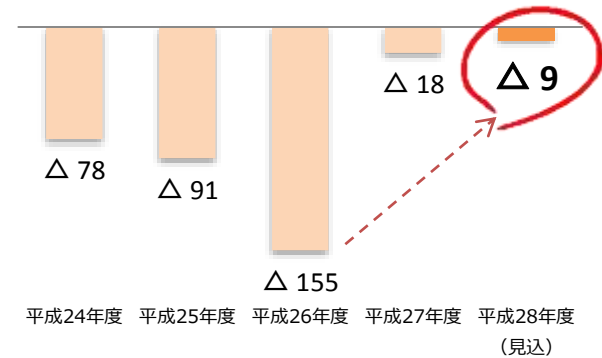
収益



支出



収支差引額



平成28年度決算は、9億円の赤字見込

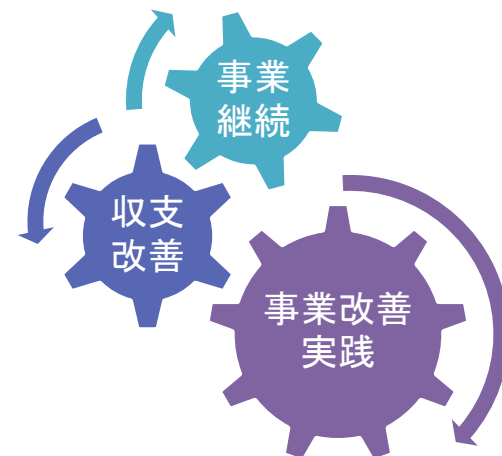
今後

収支改善の一層の進行

- 平成27年度△18億円、28年度△9億円(見込)と赤字決算ではあるが、改善傾向にある。
- 平成29年度は職員数の適正化及び時間外勤務抑制等による人件費削減、更なる事業改善による経費削減を行うことで**収支均衡(以上)**を目指す。

取り組みの一部

- ◆ 職員数の適正化等による人件費削減
- ◆ 効率的な採血推進による材料費削減
- ◆ 輸送ルート等の契約内容見直しによる経費削減

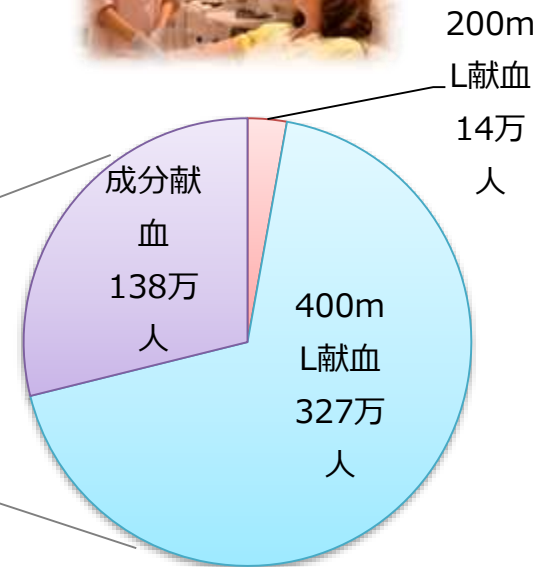
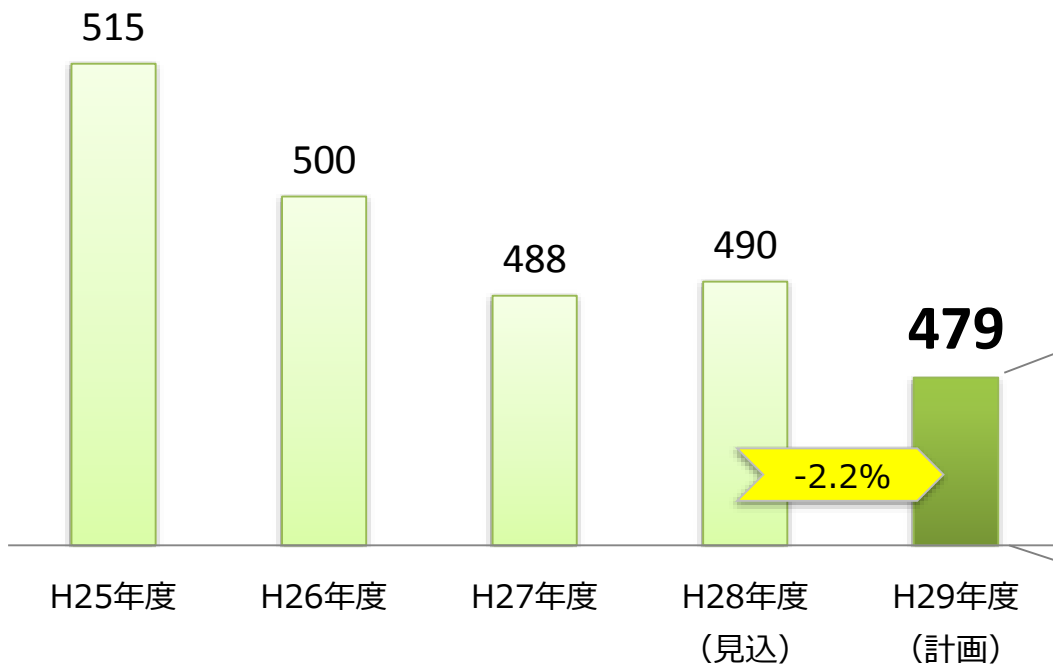


(3) 献血者の安定的確保

状況 需要に見合った血液量の確保

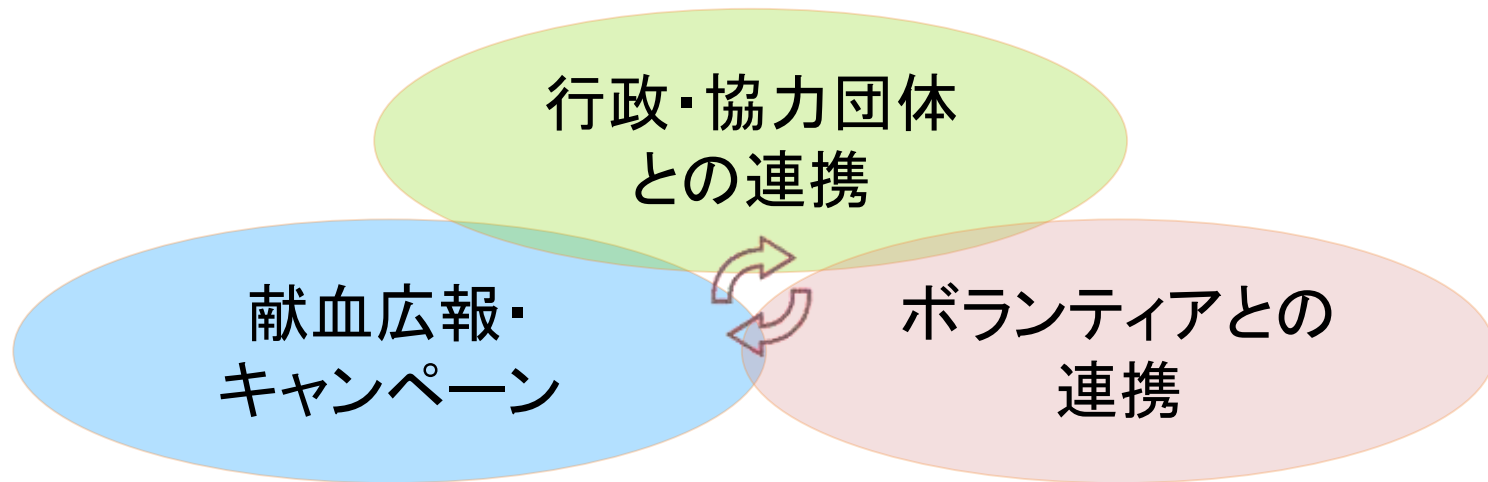
献血者数の推移

単位：万人



今後

赤十字の資源を活かした若年層への推進



学校での献血セミナー



広報キャンペーン



大学運動部の献血協力

行政・協力団体 との連携

- ① 教育現場での献血セミナー
- ② 献血協力企業の拡大
- ③ 首長からのメッセージ発信

献血広報・ キャンペーン

- ① 献血未経験者への動機づけ
- ② 複数回献血(年2回~)の促進
- ③ 輸血を受けた患者からのメッセージ

ボランティアと の連携

- ① 大学等の学校献血の強化
- ② ボランティアリーダーの研修
- ③ 全国学生クリスマス献血キャンペーン

献血協力団体(一部)

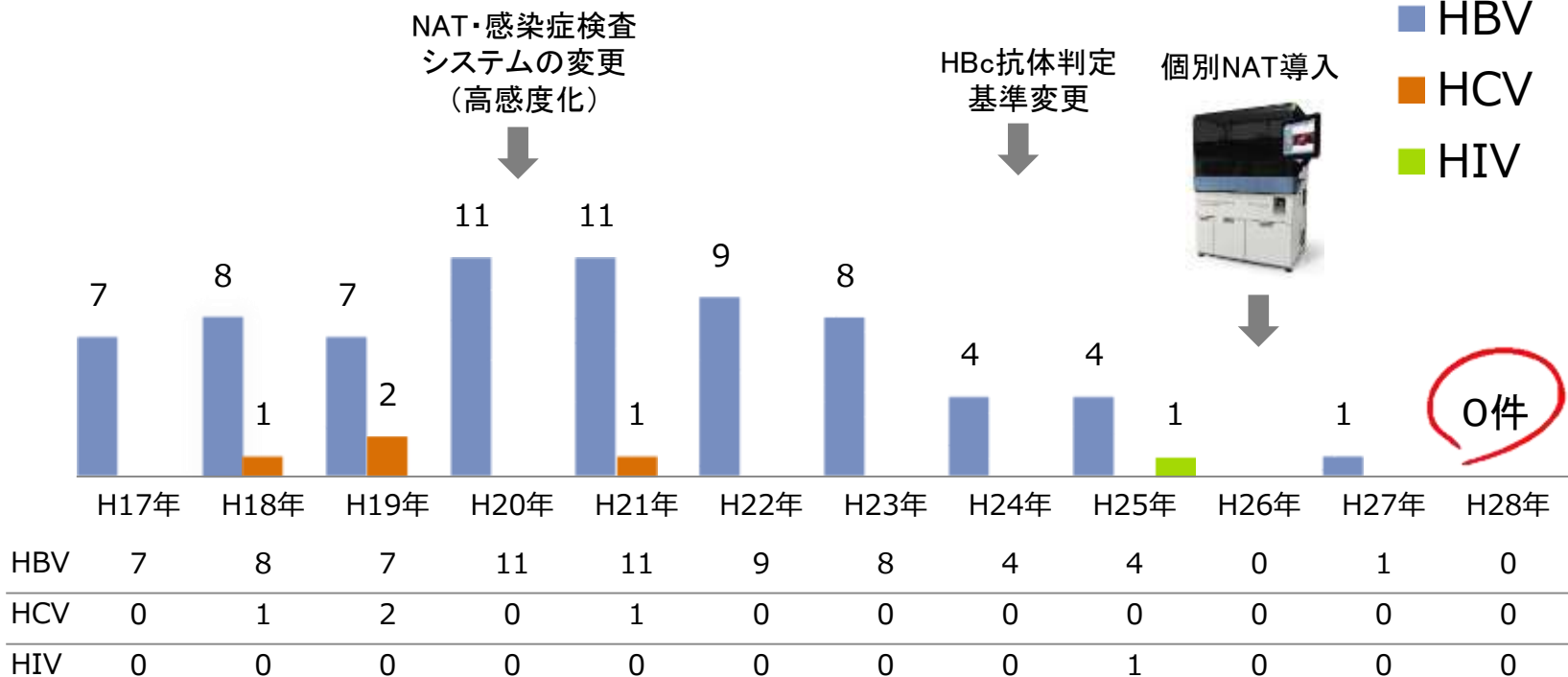


(4) 血液製剤の安全性向上

状況 輸血後感染症のリスク低減

輸血感染症 (HBV・HCV・HIV) の推移

(年は採血年)



参考: 年間の輸血患者数は約95万人 (H26 日本輸血・細胞治療学会調べ)

今後

新たな感染症対策の検討

デング熱やジカ熱等の新興・再興感染症は、輸血感染の可能性があるので、新たな検査の実施や、混入した病原体等の感染性を低減化する技術の導入等を検討



デング熱等の感染源となる蚊



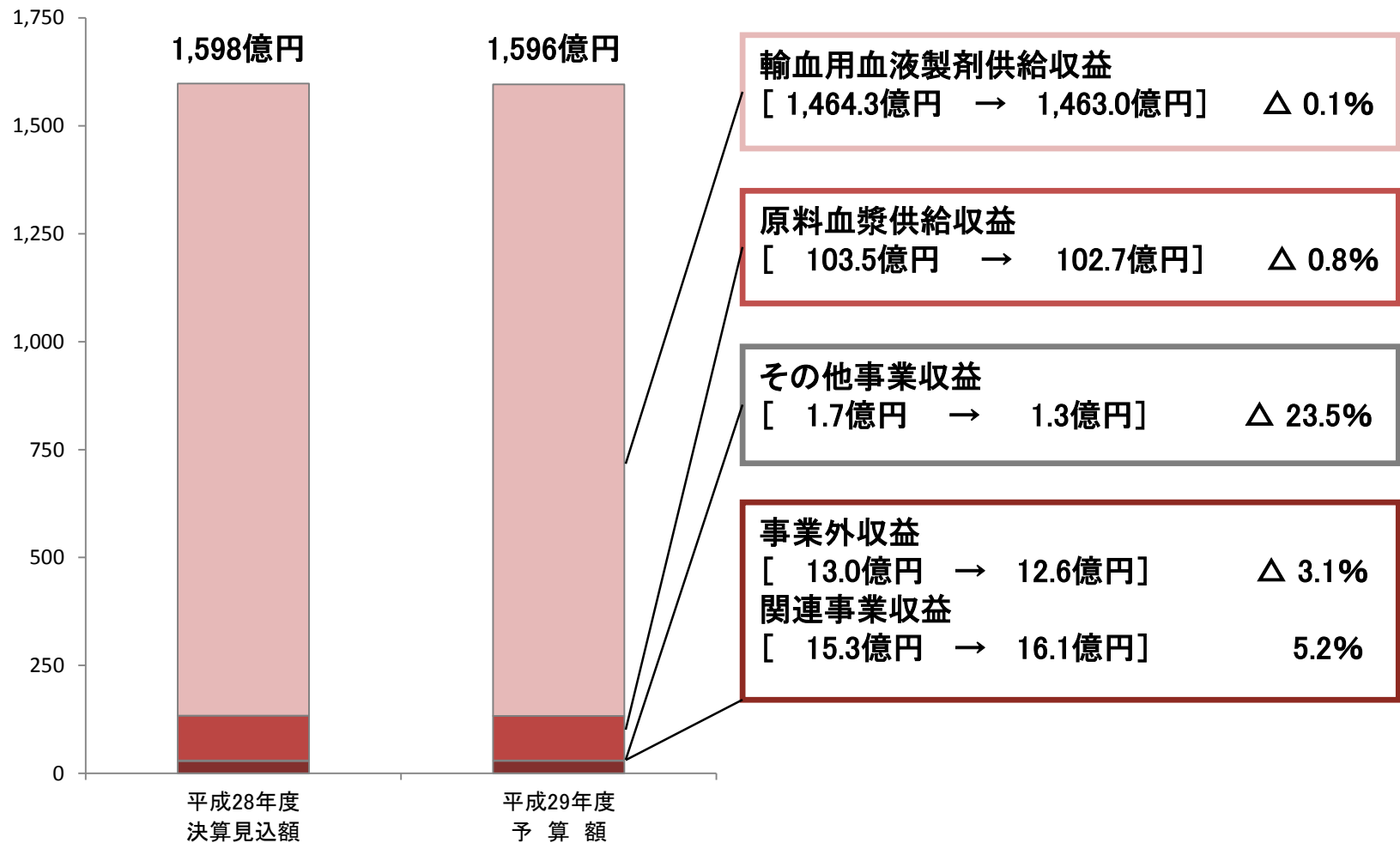
シャーガス病の感染源となる原虫

新興・再興感染症例

デングウイルス、ジカウイルス、マラリア、シャーガス原虫、チクングニアウイルス、ウエストナイルウイルス、SARS、バベシア原虫

4. 血液事業特別会計収益的収入のあらまし

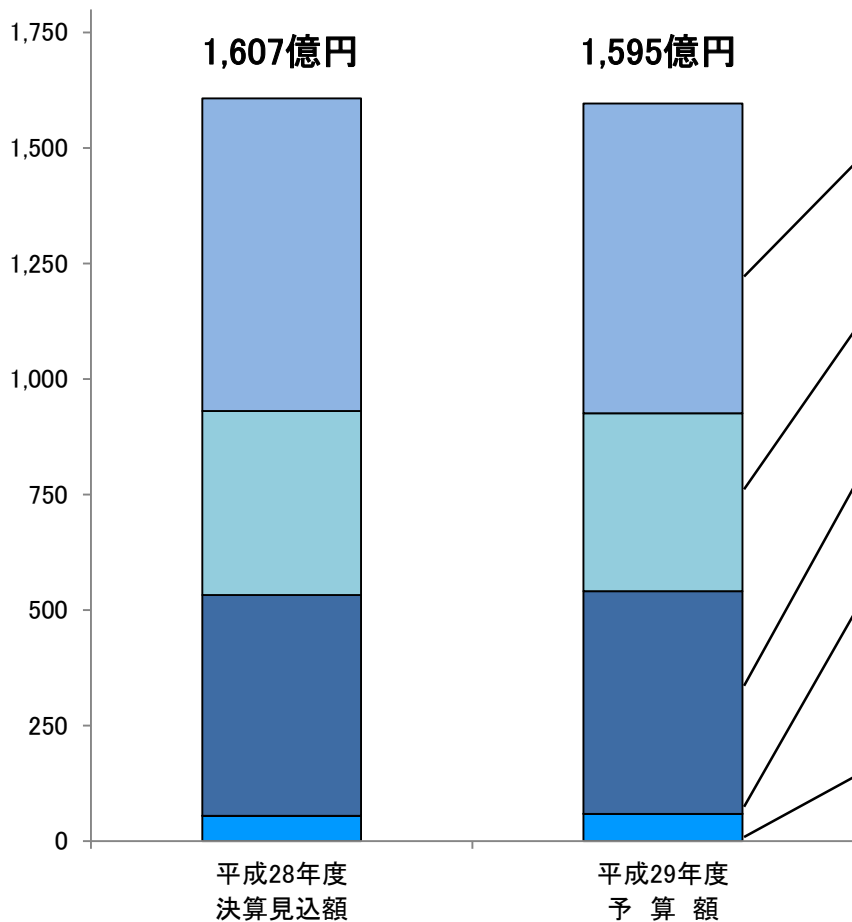
(億円)



	平成28年度決算見込	平成29年度予算	増減額	増減率
収益的収入合計	1,598億円	1,596億円	△2億円	△0.1%

5. 血液事業特別会計収益的支出のあらまし

(億円)

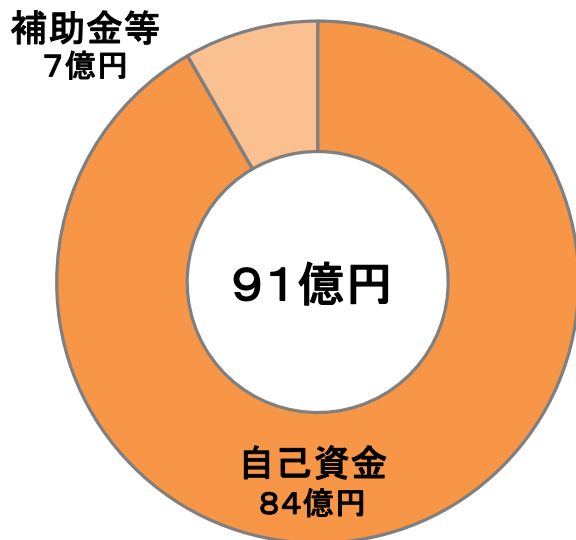


人件費	[677.0億円 → 670.1億円]	△ 1.0%
材料費	[398.0億円 → 385.4億円]	△ 3.2%
経費	[477.7億円 → 480.8億円]	0.6%
その他供給原価	[0.07億円 → 0.08億円]	14.3%
事業外費用	[34.9億円 → 35.1億円]	0.6%
関連事業費用	[16.7億円 → 18.7億円]	12.0%
特別損失	[2.9億円 → 5.4億円]	86.2%
法人税等	[0.05億円 → 0.09億円]	80.0%

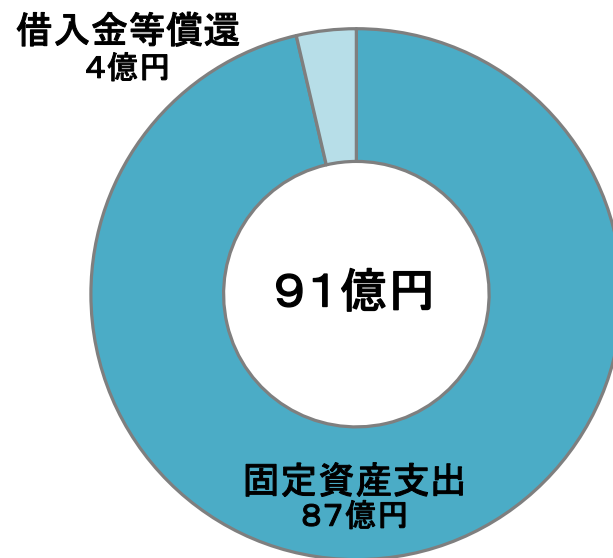
	平成28年度決算見込	平成29年度予算	増減額	増減率
収益的支出合計	1,607億円	→ 1,595億円	△12億円	△ 0.7%
収支差引額	△9.4億円	→ 0.1億円	9.5億円	

6. 血液事業特別会計資本的収支のあらまし

【平成29年度収入】



【平成29年度支出】



資本的支出

内 容	金 額
血液センターの施設整備等	39.3億円
成分採血装置、全血採血装置、血液保冷库等の機械整備	22.2億円
移動採血車、献血運搬車等の車両整備	8.0億円
血液事業情報システム改修・データセンター更新、献血者管理システム開発、全社系情報システム構築、造血幹細胞事業システム開発等	17.6億円